

## 家庭科の男女共修をすすめる会

・発行日 51. 4. 30    ・連絡先  
一部 50円    東京都渋谷区代々木2-21-11  
〒 50円    婦選会館内  
TEL 03-370-0238

はじめスエーデンの学校制度について話  
ましよう。スエーデンでは十年目毎に大きな  
教育改革がありました。六〇年代は平等化政  
策にもとづいて改革が行われ、六九年の第二  
次改革では指導要領も書き改めました。それ  
以前の教育はと云えばエリート教育だったの  
です。バルメ現首相が文相のとき「義務教育

テーマ 「スエーデンの性教育と男女の役  
割分担」  
日時 二月二十八日PM一・三〇～四・三〇  
講師 ビアネール・多美子氏  
・スエーデンの義務教育

### 第二一回 「家庭科の男女共修をすすめる会」集会報告

◎第二一回「家庭科の男女共修をすすめる会」集会報告	1
△テーマ「スエーデンの性教育と男女の役割分担」ビアネール多美子氏	4
△性教育教材の現状	4
◎家庭科再検討もうたわれる	4
◎婦人問題企画推進会議中間意見	1
◎婦人問題企画推進会議委員ならびに総	1
◎校長先生にも協力を要請	5
◎関西グループ便り	8
◎日教組第二六次教育研究集会家庭科分科会の報告	9
◎日誌メモ	10

……次回集会のおしらせ……

#### 第12回討論集会

テーマ 「女の子の未来と家庭科」  
報告者 樋口恵子  
参加費 200円  
日時 6月19日(土)  
PM1:30～4:30  
場所 婦選会館  
渋谷区代々木2-21-11  
電話 03-370-0238  
(新宿駅下車徒歩7分)

はどんな子どもにでも同じ程度、行われなければならない。できる子は待っていても。また教育はあくまで生徒中心で、学校と社会とは切り離されたものであってはならない。しかも学校は社会より少し進んであるべきだ。生徒一人ひとりが絶えず疑問をもってあたれ、上からの押しつけであってはいけない。あくまで生徒の自主性を養え」ということを提唱しました。学校と社会と家庭と三位一体で、しかも個々の生徒にあった教育というわけです。生徒数は一教室二十五人、三〇人です。宿題は原則としてありません。試験については義務教育は九年間ですが試験があるのは三・六・七・八・九年のときだけ、この時だけ成績表を貰うわけです。教科書については何万種類もありますが教科書はあくまで補助的に使えといわれています。文部省の押しつけではなく先生の選択にまかされています。あるグループでは「社会こそ偉大な図書館だ」ということで教材書不買運動をやっています。

#### ・性教育はいつ、どこでやるか

一五才以下では性交はやってはならないと法律にはありますが現実は一才ぐらいからはじまっています。どんどん早くなる性交年令にしたがって指導要領も書き換えねばなり

ません。そこで政府は七四年に一〇年かけた性教育に関する調査報告を出しました。性教育は必須科目でも指導科目でもありませんが何らかの形で必ず指導しなければならぬ教育の中に位置づけられています。同様なものには消費者教育や環境問題、麻薬や煙草に対する教育などがあります。

性教育はあくまで生徒の発育にあわせてやらねばなりません。月経について教えるときは初潮のはるか前に行われなければならない。低学年（七才～九才）で四人に一人は初潮をみる原因がわからず不安がるという統計もあります。そして十二・三才で最初の性交はじまります。ある校医の告白によれば十三才でも妊娠のおそれのあるものはピルを与えているそうです。手おくれになるより予防をということでしょう。先頃、新聞の投書にも十四才の男の子から「コンドームは何故こんなに高価なのだろう。こういうものは一週間に一度、学校で配給したらいいのに。」というのがありました。

#### ・たいせつなのはいたわりとやさしさ

六九年の指導要領では、しかし性の実際よりは思いやり、友情、責任感を重要視しています。

自慰行為については、小さな子どもでも一般的にあることなので、「体は自分自身のものですよ。いじりたければいじってもいい」と教えます。七才～九才で避妊について、断種や不妊症について教えます。子どもは欲しくない人は持つ必要はないし、体は治すことができることを教えます。またスエーデンでは韓国やインドの子ども、第三世界の子どもを養子にする例が多いので養子について、人種差別のことも含めて教えています。そして家族というものは父と母と子といった組合わせだけでなく、父と子、母と子、あるいは大家族の場合もあることを理解させます。これらの教育は先生側からの一方通行でなくあくまで生徒の側からの問いかけを誘発するように導いていくべきです。

かつて性は秘密めいた不安のあるものでしたが今、こどもたちは安心感を持っています。中学校では具体的な性交について教わりますが、一部の生徒は近い将来性交に直面するわけですが、あくまで、それはギイブ・アンド・テイクで他人に強要されるものであってはならない、若い年令のセクスは当人同志失望することが多く、親のぞまないことをはっきり云いなさい。だれでも注意といたわりを持つ

てあたりなさい。のぞまない子どもはつくらないこと、淋病はうつさないこと、ホモについても積極的に話しなさい。何故ならこの年代の子ども（九才～十二才）はホモについての偏見が強いからです。

高学年（十三～十六才）では婚姻前教育がはじまります。婚前性交について先生は強制も禁止もしてはいけません。

ポルノグラフィは否定的にあつかいます。何故なら興味だけで性を語っていて、そこにはいたわりがない、女性を差別的に扱っているからです。しかし性について解放的な見方は肯定してよろしい。随胎についても否定も肯定もしてはならない。子どもは本人が望んだときに持つべきだと指導するように。そしてはじめての性交は失敗に終わることが大きいことを教えなさい。それは練習と経験によってよくなるものであるが深い心の結びつきの方がもっと重要だということを認識させなさいと指導要領は云っています。

#### ・性の役割分担

六二年の指導要領では全く入っていなかった男女の役割分担という項目が六九年のそれでは家庭科・児童科・社会科などで主に取り入れられるようになりました。指導要領の目

標と方針の中で「学校は家庭において職場において社会全般において性の平等化をなしとげるようにすべきである。これは男子・女子を平等に取り扱うことにより伝統にしばられた男女の役割を中和し、社会の各所に影響を、仕事内容、賃金などの男女差別について生徒が何故かと思いつく議論を持ていくような授業方法を取りなさい」と指示しています。

役割分担の教育は各学年を通して行われています。まずし家庭にも協力を求めています。そこでは自分たちがやってきた役割分担と分離し男女平等に扱ってくれと要請しています。生徒自身もテレビや映画・新聞などマスコミによる情報から疑問を起し、討論の下地を集めるように云われています。教育庁はいくつかのモデルスクールを指定しましたが、その一つの例を紹介しましょう。その学校では先ず性の偏見に対するアンケートをやってみたところ生徒は性に対する差別感を非常に持っていることがわかった。低学年のある先生は自分が使っている言葉や態度の中に子どもたちを差別していることを知り、先ず自分自身の変革からはじめた。また低学年では両親に、高学年では町の中へ出て、「女の巡査をどう思うか」などについてインタビューさせるな

ど報告されています。中学年では知的な問題「働く男女にとって社会はいかにあるべきか」を両親の経験などをきいて討論させています。また「泣くこと」について話し合った先生もいます。泣くのは女だと云われていますが男だって泣いたっていいではないかというのです。

七〇年から調査をはじめ、七七年はスエーデンでは男女の役割教育大改革の年になります。こゝでは男は台所に立たせ、女子に政治の危機を切り拓かせようというわけです。

女子に低学年から技術的な力をつける教育がなされるでしょう。又職業教育も小さいときからはじめられます。体育は男女とも全く同じ。高校では女子に技術関係を、男子には看護をもっと学ばせる予定です。両親や学校で働く人たちのために基礎知識の研修会やパンフなども用意されなくてはならないし、教材をつくる人たちに忠告やアイデアを送る方法も検討されましょう。また新しい性の役割について教えるインフォメーションセンターの設置も必要になってくるでしょう。これらは今、具体的に検討されています。

（文責・嶋田）

・お話に続いて、スエーデンの一般国民の反応や日本の状況について論議がかわされました。

なお、お話に先立ち、日本の性教育で使われているスライドを映写しました。

### 性教育教材の現状

今回の集会で、私たちは学研の中学生向けの性教育スライドの一部を見たが、学研からは他に小学生向け、高校生向け（青年男女用）父母・PTA向けのスライドシリーズが出ているし、映画も同じようなものが出されている。また、東映からも性教育フィルムが出され、日比谷図書館では、これらのスライドやフィルムを団体むきに貸出しもしている。

週刊誌テレビなどのかたよった性文化、性情報の氾濫に対して、正しい性教育の必要が叫ばれているので、これらは学校、PTA、各種社会教育の場などかなり利用されている。

日本の性教育は、戦後の性の混乱期に、文部省の社会教育局から純潔教育という名で提起され、学校教育の中では、健康教育の一環として保健の単元の中に位置づけられたので、監修者にはたいいてい文部省体育局の人がはい

っており、他に医者、心理学者、教育学者などが加わっている。これらの教材には、今も純潔教育と銘うったものもある。

内容が、幼児の育て方、男女交際と礼儀、男女の発達状況、性器の構造と機能、生殖のしくみ、精神衛生、性病、性非行、家族計画など多岐にわたっているのは、文部省の出した純潔教育の基本要項が、性教育を、全人格的、生涯的なものと規定しているからである。性道徳的なものと、生理的、科学的なものが同時にこまれているが、性道徳的な部分には、女性の純潔を守る、性非行から守る、というニュアンスが残っていて健全な男女交際には節度がなければ、という姿勢が感じられる。生理的な問題の部分は、きわめて抽象化された図や医学的用語などが使われ、具体性が乏しい。

文部省はじめ、性教育関係者の間に、性教育は「性の放縦の歯止めにするもの」という考え方があり「性を人間のコミュニケーションの形として解放していくためのもの」という方向がまだ定まっていけないので、また日本の社会全体に性をタブー視する風潮があるのでどうしても歯切れがわるく、形式的なものになっ

（駒野）

家庭科再検討もうたわれる

― 婦人問題企画推進会議中間意見 ―

日本の女性をはじめて参政権を行使してからちょうど三〇年目にあたる四月一〇日、婦人問題企画推進会議の中間意見が植木法務長官に提出されました。

この会議は、昨年九月三木首相の私的諮問機関として発足したもので、国際婦人年世界会議で採択された「世界行動計画」にもとづいて日本ではどんな施策が必要か検討がすめられています。

会議の最終報告はことし九月に提出される予定ですが、総理府の婦人問題企画推進本部は、この中間意見を参考に、四月末に具体的な方針をたてるとのことです。

中間意見では、女性についての既製概念を破ることの必要性が強くうたわれていますが、具体性に乏しく、実際に役立つ施策が生まれるためには、これから各方面での大きな努力が必要だと言えましょう。

中間意見は、1. 基本的な考え方 2. 教育・訓練 3. 労働・職業 4. 家庭 5. 社会福祉 6. 政策決定・市民活動 7. 国際協力 8. 調査研究・評価の8項目からなっていますが、特に家庭科とかわりのある部分を引用してみ

ましよう。

### 1 基本的な考え方

個人の尊重と男女の平等は、普遍的原理として日本国憲法に保障され、国際連合憲章や世界人権宣言にもうたわれている。我が国の法制は、この原理の下につくられているが、社会や家庭には、いまだに男女の不平等が慣行として残っており、婦人の能力・特性に対する偏見や、「男は仕事、女は家庭」という固定的な役割分担の観念が今なお人々の意識に強く根をおろしている。

（以下略）

### 2 教育・訓練

（1、2、略）

3. 学校教育の内容が将来の男女のあり方を、いまだに根強く残っている役割分担意識に固定することのないように、教育課程の基準の改善の方向を吟味する必要がある。家庭科教育も、家庭運営の責任が男女双方にあるという立場から検討されなければならない。

（4、5、略）

### 3 家庭

1. 家庭は社会活動の基盤として重要な役割を果たしているが、家庭をとりまく社会環境の変化に伴って、家庭自体の形態やあり方も、

共働き家庭、母子家庭、中高年独身家庭を含めて多様化している。多様なすべての家庭が、社会的に認められ、その必要に応じて行政からも配慮されることが望まれる。

2. 家庭での男女の固定的な役割分担の考え方を直視し、家庭の運営について男女双方がひとしく責任を有することを再確認する必要がある。このことは、社会的条件の整備と並んで、婦人の社会参加の基礎となるものである。婦人が充実した人生を送るためには、婦人の生活周期の変化に対応した生涯設計をたて、家庭にあっても社会との接触を保ち、その能力を開発することが必要である。

3. 家庭のあり方は、子どもの人間形成に大きな影響を与える。子どもの養育にあたって、男女が平等であり、同価値であるという意識を育てることが、将来の社会のあり方を決するであろう。男女の役割を固定するような差別をなくし、男の子にも女の子にも自分の心身の健康管理や日常の基礎的能力を身につけさせることが必要である。

（4、5、略）

（梶谷）

・発起人は、この発表に先だち、次のように総理府および企画推進会議への働きかけを行いました。

婦人問題企画推進会議委員ならびに総理府婦人問題担当室長を訪ねて

昨年九月二十三日の閣議で、国際婦人年世界会議における決定事項を国内施策に取入れ、その他の婦人に関する施策について、関係行政機関の連絡を図り、総合的・効果的な対策を推進するために、婦人問題企画推進本部ならびに会議が設置されたことはご承知と申します。

私たちは、家庭と子供についての男女の共同責任が受け入れられるために、教育を通じて社会通念を変えるためのあらゆる努力が払われるべきこと、男女ともに家庭生活について学ぶべきことが明確にされた世界行動計画を国内施策に取り入れるためのこの会議に大いに期待を寄せ、別稿のような要望書を作成しました。

◇ ◇ ◇

要望書を持って、まず三月四日には、落合梶谷・塚本・和田・半田が婦人問題担当室長久保田真苗氏を、三月八日、推進会議座長、藤田たき氏を、落合・塚本・和田・半田が、

三月十五日には、推進会議委員山本松代氏を青木・塚本・和田・半田が、四月一日には委員、塩ハマ子氏を和田、半田がお訪ねしました。会議委員全氏に於てた要望書を持参し、藤田氏からお配りいただくようお願いしました。

久保田氏は「制度上の男女差別を撤廃するのは国のなすべきことである、家庭科の女子必修がおかしいことは会議でもよく出ている。日本では諸外国に例を見ないほど、役割分業が固定化し、それがすべてにかぶって出ている。家庭科の男女共修をすすめるためにネックとなるのは母親ではないか。家庭科の新しいイメージを一般の人にわからせる努力が必要だろう。施策に生かす場合は、家庭科の教育内容とからんで、どこまでを必修にするかが議論の的になろう」と言われました。

藤田氏は、家庭科男女共修についての現場教師の賛否の状況、すでに共修を実施している学校での生徒の受けとめ方を尋ねられた後世界行動計画を施策に取り入れるための推進会議で、男女共通の学習をすることに反対する人があればおかしい。人生に対する態度を、伝統的な役割分業固定化の思想から変えさせるには、家庭科を男女共に学ぶのはよいことだと思ふ」と語られました。

く、男女共通必修に改めて下さい。

一、小学校五・六年における男女共学の家庭科は現状を確保して下さい。

#### △ 理由

・ 昨年七月一日、国際婦人年世界会議において採択された「世界行動計画」には、男女平等の達成のために、家庭・社会の中の伝統的な男女の役割分担を変える必要性と、教育を通じて社会通念を変えるためのあらゆる努力が払われるべきこと、両性を対象とする教育課程には、一般科目の他に、親としての責任、家庭生活栄養及び保健を含むべきことがうたわれています。

また、昨年十一月二十二日開かれた国際婦人年日本大会においても、大会決議に「教育については、学習指導要領・教科書を再検討し、教育内容を男女同一にすること、特に家庭科は男女共修にすること」が織り込まれています。

・ しかるにわが国では、中学校では技術・家庭科の内容が「男子向き」と「女子向き」とに分かれて男女別に履修し、高等学校では女子は「家庭一般」四単位必修、男子は体育の必修単位が女子より四単位多くなっています。すなわち高等学校までの普通教育において

#### ◇ ◇ ◇

山本氏は、戦後新しい家庭科を誕生させた方なので「私にしてみれば、男女共修運動は何を今さらと言いたいほど当たり前のことだったのが、女子必修の家庭科にしまったのが、なかなか家庭科教師だからだ」と痛烈に指摘され「義務教育の中学校で技術・家庭科を男女別学にしていることはいかにもおかしい。ここで男女役割分業の意識が固まってしまう。男子が生活について学ばないことは大問題だ。また現在の教科書はミニミニ家政学の寄せ集めでナンセンスである。家政学のあり方、教員養成などもガンだが、せめて指導要領をもっと大ざっぱで弾力性のあるものに、教科書の中身をよいものにしていかなければならぬ」と語られました。

会議の今後の予定は、三月半ばまでに（教育・労働）（社会福祉・家庭）（社会・国際）の三部会・連絡会をすませ、四月上旬の総会で基本的なポイントをきめるとのことでした。

#### ◇ ◇ ◇

塩氏は前文部省社会教育局婦人教育課長で、婦人・家庭問題に取り組んでこられた方だけに、家庭教育の中で男女平等をどう育てるか

が教育の中で最も大切なことであり、婦人問題を掲げた強力な婦人グループを育成するために、リーダー養成の内容検討が大切であると考えて来た、とのこと。「家庭科男女共修には大賛成だ。家庭運営の責任が男女双方にあるという角度で家庭科教育を検討すべきだとの指摘を、会議の方針の中に取り入れた。家庭科が男女共修であつたら、起きなかったであろう諸問題が社会教育の場にも多い。政治・経済・産業などは、人間を生かすための科学を使っていない。人間・家庭中心の民主主義社会にするための家庭科教育でなければならない」と私たちの運動に深い理解を示されました。

（半田）

#### 家庭科の男女共通必修を

##### すすめる要望書

#### △ 要 旨

一、中学校・高等学校の学習指導要領から男女格差をつけている「男子」または「女子」の語句を削除して下さい。

一、すべての中学校において、家庭科を男女共通必修にし、高等学校における家庭一般の女子必修を廃止し、選択履修ではな

に入つたと聞いております。「世界行動計画」を具体的に実現させるべくご活躍下さる「婦人問題企画推進本部及び会議」の各位におかれましては、わたくしたちの要望事項をご了解いただき、方針に取り入れて下さいますようお願いいたします。

昭和五十一年三月 日

#### 家庭科の男女共修をすすめる会

発起人

市川 房 枝

落 合 トア子

樋 口 恵 子

他九名

殿

新潟県、石川県でも共修をすすめるグループが活動を始めています。各地の情報を存じの方、事務局までおしらせ下さい。

\*\*\*\*\*  
校長先生にも協力を要請  
\*\*\*\*\*

共修をすすめるためにもっと校長先生の協力も得たいと、「会」では校長会家庭科部会の六〇名の校長先生宛に、「一問一答」のパンフレットといっしょに次のような手紙を送りました。

学年末を控えて先生にはお忙しい毎日をお過ごしのことと存じます。

よりよい教育をめざしていつもご尽力いただいておりますが、教育課程改訂の作業がすすめられている今、ぜひ家庭科の男女共修実現のためにお力添えをいただきとうございます。

生活を大切にする人間を育てるため、また男女差別をなくすため、小・中・高校での家庭科の男女共修が必要であるという認識はかなり広まって来てはおりますが、まだまだ十分とは申しません。

昨年の国際婦人年世界会議で採択された「世界行動計画」においても、男女平等を達成し、社会を発展させるために、社会や家庭の中での伝統的な男女の役割分担を変える必要性を認識すべきこと、教育を通じて社会通

念を変えるためのあらゆる努力が払われるべきことがはっきりとわれています。

また、昨年十一月二十二日開かれた国際婦人年日本大会においても、「教育については、学習指導要領、教科書を再検討し、教育内容を男女同一にすること、特に家庭科は男女共修にすること」が決議されています。

家庭科の男女共修は、これらの要請に、こたえるものと申せましょう。

私どもの会で作りしましたパンフレットをお送りしますので「世界行動計画」をはじめ、男女平等に関する各種の国際的な宣言、計画等を合わせて十分に検討の上、新教育課程において、小・中・高校の家庭科の男女共修が実現されるよう、また各地域、各学校において、どんな共修がすすめられるよう、ご尽力下さいますよう、お願い申し上げます。

昭和五十一年三月 日

家庭科の男女共修をすすめる会

市川 房枝  
落合 トア子  
樋口 恵子  
他九名

殿

\*\*\*松尾氏を再び訪問\*\*\*

教育課程審議会スタート当時紅一点だった松尾倭文子さんを、三月二十六日、発起人は再び訪問しました。

前回には、家庭科共修への極めて素朴な疑問を出された松尾さんも、二年を経た今、はっきりしたお考えを明らかにして下さいました。

「家庭科は、小・中・高一貫性を持った体験的学習でなければならない」「男女同権は頭で理解するだけでなく、具体的に実践されなければならない。男性は実際に家事処理の能力がなければならない」「今の男性がおっくうがってやらないことでも、小さい時から身につけていれば何でもなくできる筈だし、男にとってもできる方が得にきまっている」「自分で実際に体を動かしてこそ、愛情も思いやりも生まれるのではないか」と、基本的な理解を示されました。

そして、共修をすすめるためには、「人間として当然必要な基礎的な学習をするのだ」ということを人々に納得させること、「あれもこれもというのでなく、どういうことを中心に学べば生活全体をしっかりと捉えることになるのか、衣・食・住、その他それぞれの分野にわたって具体策を出すこと」などが必要だ

というご意見でした。

なお、教課審では、小・中・高の部会、教科ごとの部会、全体会がそれぞれ連絡をとり合いながら併行して開かれ、最終答申（今年の秋か年末の予定）に向けて審議がすすめられています。

家庭科の問題は、数学の現代化の問題と並んで、特に議論の対象になっているようですが、今度の改定こそ、悔いの残らないものになることを期待したいと思えます。（梶谷）

教課審家庭科部会のメンバーは、治郎丸猛氏、玉井美知子氏、寺元芳子氏、若田せつ氏、渡辺茂氏ら

関西グループ便り

一月二十九日「家庭科の男女共修を考える会」を開き、七九名の参加者の要望をうけて、早速組織作りに取りかかり、三四名の方に発起人になって頂くことができ、年の瀬も押しつまった二月二日発起人総会を致しました。その席で「呼びかけ文」「要望書」を決定し、会の性格や運動方法などを確認しました。そして一月十五日、女の小正月にめでたく結成総会にこぎつけることができました。

その間、教課審全員に要望書を送ったり、大阪在住の委員、治郎丸猛氏に津村、河野、田中の三人が面会し陳情したりしました。

結成総会では、相当強力な運動をしないと効果は期待できないと云うことで、一月末までに一人で教課審宛に十名以上署名を集めること、更に次の段階の為に、各府県教委宛の署名もしてもらうことになりました。又研究部、情宣活動部、事務局、各府県センター等も決定しました。

初仕事は日教組教研に参加して、ピラやニュースを配布し、次の会は家庭科の男女共修の中身はどんなものか、その実践報告を京都山城高校の森幸枝氏に、大阪大正中央中学の関根正子氏にしてもらい、日教組の制度案を検討し、意見を送付することにしました。

治郎丸氏が家庭科部会の委員長ということなので、集められた一三七〇名の署名をもって二月二〇日、飯田、森、津村、阿部、藤本が陳情に行きました。氏は、家庭科は総合教育の場だから、現実にその成果を見ることができると。チームワークで協力して物を作り出すことを学ぶ点で価値がある、と評価され「至上命令の時間を減らさねばならない」と云う理由から、家庭科は廃止はしないが、共

修にすると云われない」と断言され、選択制をにおわされました。

三月二日、立命大の貞広太郎教授に「家庭科と技術科の教科論」を講演してもらいました。家庭科は生活点の問題、主として家庭の民主化、消費の場、個体や人間の再生産、国や自治体とのかわりなどがその内容であり、技術科は生産点の問題、主に生産手段や生産労働がその内容であると話されました。又同日、上村氏より指導主事が既存のカリキュラムを縮小する為のアンケート用紙を配布、回収していることが報告されました。

情勢は深刻なので、四月五日拡大発起人会を開き次の事項を決定しました。①カンパ活動を強力に推進する。②自主編成の内容で実践を積み重ねる。③官製研究会で共修の同意を拡げ、指導主事と話し合う。④地域で「家庭科を考える集い」をもって底辺を広める。⑤署名を次回までに十人以上、賛同者をできればもう一人増やす。⑥家庭科部会の審議委員と文部省の担当係官に手紙運動を行う。

⑦すすめる運動の交流を行う。  
次回五月三〇日には、「半年の運動を交流することにし、それ迄に地域の集いのできる処から手がけることになりました。（関西グループ藤本）

日 教 組 第 二 六 次  
教育研究集会家庭科分科会

さる一月二三日〜二六日、大津市で開かれ

た集会には全国各地から2万数千名の教職員が参加して、熱心な研究協議がおこなわれた。家庭科分科会は滋賀女子高校を会場に連日二百名以上が集まり、1.家庭科とは何か 2.当面の問題 3.何を、どう教えるか 4.当面する生活課題と家庭科の系統性 5.家庭科の全体構造をどう立てるか 6.これからの研究・運動のすすめ方、を柱に討議をすすめた。

そのなかで「家庭科男女共修」に関しては中学・高校の各小分科会でとり上げられ、次のような共通理解や確認がされました。

- ① 家庭科が男女別学にされている背景はなにかを適確につかむ必要がある。
- ② 子どもの全面発達を保障し、男女共学に耐えられるような内容にすることが重要。
- ③ 中学一年の共学で布加工として、ショートパンツを教材にしたところ成功した。被服教材として好適だともう(岡山)
- ④ 有害食品をとり上げて成功した。
- ⑤ 中学校でも「家庭生活の認識」のための学習は成果があるから、ぜひ取り入れたい。

⑥ 九〇%が進学する高校(山形)でも女子の大多数、男子の半数以上が共学を支持している。

⑦ 佐渡が島の島内六校の生徒を調査したところ、地域の親たちは「女子特性論」なのに、生徒は男子七二%女子八〇%が共修賛成。

⑧ 長野では、進学高校でも人間性を回復する時間として生徒も受けとめている。

⑨ 性・結婚・妊娠・出産・家族史を共修ですすめて成果をあげた(東京)例も出され、家庭科の独自性は現実の人間やくらしを対象として文化や科学・技術を、他教科で得た学力を土台にして学ぶことが明らかにされました。

また、四月三日に杉並区産業会館でひらかれた「はたらく母の会」の例会では「家事分担をどうするか」について話し合いがおこなわれ、「小学校での男女家庭科のおかげで男の子でも針仕事や炊事をしてくれるようになって助かっている。ところが中・高で別学がすすむと次第にやらなくなる。家事手伝ではなく、家事分担の意識がなかなか根づかない」と、共修の必要性が確認されました。

(和 田)

日 誌

☆ 2・28

第一回集会「家庭科の中で性教育をどう扱うか」

婦人問題企画推進会議委員宛要望書と校長会宛の手紙の文案作成  
総理府婦人問題担当室長久保田真苗氏訪問(落合・梶谷・塚本・半田・和田)

☆ 3・4

婦人問題企画推進会議座長藤田たき氏訪問(落合・塚本・半田・和田)

☆ 3・8

婦人問題企画推進会議委員山本松代氏と面会(青木・塚本・半田・和田)

☆ 3・15

校長会家庭科部会会員宛にパンフレットと手紙を発送(和田)

☆ 3・25

教課審委員松尾倭文子氏訪問(青木・梶谷・中嶋)

☆ 3・26

婦人問題企画推進会議委員塩ハマ子氏訪問(半田・和田)

☆ 4・1

はたらく母の会例会に参加(和田)

☆ 4・3